



## 今日のキーワード 『理想買い』と『現実買い』とは

株式市場では、『理想買い』と『現実買い』という言葉があります。株価は本来、企業の業績が良くなれば上がり、悪くなれば下落するものです。企業の業績には予想や予想に対する市場の思惑があります。企業の業績が良くなるには、事業環境の変化、新製品の開発、新工場の建設など様々な要因が考えられます。これらの要因に対する投資家の思惑（＝理想）と、それが実現したという事実（＝現実）が、株価を買う原動力となります。

### ポイント1 『理想買い』と『現実買い』

- 相場の世界には『理想買い』と『現実買い』という言葉があります。『理想買い』とは先行きの企業業績に対する期待感に基づき株式を買うことを言います。たとえ足元の業績が悪かったとしても、規制緩和が進んだり、有力な新商品が開発されたりすれば、投資家は先行きの業績が改善すると考えます。一方、『現実買い』は好業績の発表など実現した材料に基づき株式を買うことを言います。これまで確信が持てなかった新商品が実際に発表され株が買われることもありますし、新商品の開発が期待外れとなると株価は下落することもあります。

### ポイント2 テスラに見る『理想買い』

- 米国EV（電気自動車）メーカーのテスラの株価推移を見てみたいと思います。
- 同社は2003年に設立された新興企業で、2010年6月、米国ナスダック市場に上場しました。上場当初から有望なベンチャー企業として注目されてはいましたが、一方で、有力なモデルを開発できるか、大量生産ができるかなど様々な点が懸念されていました。
- しかし、2012年に代表的なモデルSが発売され、その後は順調に生産が拡大しました。2019年には中国工場が稼働し、2020年には初の最終黒字を達成しており、今後、更なる業績拡大が期待されています。

（米ドル） 【テスラの株価推移と年間騰落率】



（注1）データは2010年6月28日～2021年2月18日。

（注2）2010年の騰落率は、6月28日から年末まで。

（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

### 今後の展開 今後の株式市場は『理想買い』から『現実買い』へ

- 『理想買い』と『現実買い』は相場全体の動向にも当てはまります。世界の株式市場は、昨年、新型コロナ感染拡大による景気見通しの急変により3月にかけて急落しました。しかし、その後、各国・地域による積極的な金融・財政政策や新型コロナワクチン開発による経済正常化を期待し、株価は急回復してきました。
- 新型コロナワクチン接種の普及も進み、経済活動・企業業績は徐々に回復してきました。ここまでの上昇相場が『理想買い』とすると、更なる経済成長・企業業績改善という『現実買い』への移行が期待されます。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

### ここもチェック！ 2021年2月18日 2020年4-12月期決算レビュー～業績回復傾向を確認 2021年2月 5日 日経平均株価を長期的に利益から見ると？

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。